

Ⅲ-⑥

石器はどのようにして使われたのだろうか？

岩宿（旧石器）時代の生活は、狩りを中心にしたものであったと考えられています。石器は、そうした生活のなかで、狩りの道具の最も重要な部分といえる槍の穂先として使われていました。岩宿（旧石器）時代でも古い時期にはカケラの鋭い縁を残した「ナイフ形石器」があり、後半には全体を木の葉形に加工した「石槍」、最後のころには角などで作った槍先の穂先に小さな「細石刃」を埋め込んだ「細石器の槍」などがあったと考えられています。その他、捕った動物を解体するときの「ナイフ」、道具の柄となるような木を削った「削器」、皮なめしの道具の「搔器」、骨や角を削るための「彫器」、木を切るための「石斧」などがありました。そのまま手にもって使うものもありましたが、柄が付けられていたことも多かったと考えられています。石器は当時の道具の重要な部分だったのです。

●柄をつけた狩りの道具



●肉を切る



●木を削る



●皮をなめす

